



▲村教育について、議論が交わされました



▲2日間の研修には、村の先生たちが参加しました

「研修で学んだことを、今後の放射線教育に生かしていきたい」という感想がありました。会では、教育の充実を図るために「村教育の課題」と「特色ある教育」について先生同士の意見交換会も行われました。

研修に参加した先生からは「研修で学んだことを、今後の放射線教育に生かしていきたい」という感想がありました。会では、教育の充実を図るために「村教育の課題」と「特色ある教育」について先生同士の意見交換会も行われました。

7月26・28日の2日間、幼・小・中学校教職員研修会が行われ、村の先生たちが原発事故と放射線について学びました。初日の26日は、(株)東京電力ホールディングス福島復興本社の石崎芳行代表が、福島第一原子力発電所の廃炉作業の現状と今後の取り組みについて、講演を行いました。

教職員が学ぶ2日間



▲実際の学校現場で、教育課程の研修も行いました



▲地域の特色を生かした学校施設を視察

今年6月からは、村の特色を生かした取り組みを教育施設整備に活かすために「飯館中学校改修推進委員会」を設置しました。会では、各学校PTA会長や学校長、村民などに委員を委嘱し検討を行っています。

また、委員会では8月、より良い教育環境を整備するために、教育先進地として、秋田県東成瀬村の視察研修を行いました。この村は、8年間学力が全国1位の「学習塾が1つも無い」村で、児童1人当たりの図書購入費は全国平均の4倍です。研修で委員らは、地域住民の声や地域の特性を生かした学校設備などについて説明を受け同村の取り組みに理解を深めました。

飯館村教育委員会では、平成30年4月から村内飯館中学校1か所で幼稚園・小学校・中学校を接続した教育を行うため、徹底した除染に加え、各施設の整備を進めています。

村内中学校改修に向けて



▲青空の下、テープカットで完成を祝いました



▲当日は、多くの方が「ふれ愛館」に集いました



式後は、いいたてお母さんコーラスによる村民歌で第二部の幕が開きました。美術ライター・橋本麻里さんによる講演や、NHK連続ドラマ「あまちゃん」の音楽を手掛けた音楽家・大友良英さんらによる吹奏楽のコンサートも行われ、新たな村交流施設の開館に華を添えました。

式後は、いいたてお母さんコーラスによる村民歌で第二部の幕が開きました。美術ライター・橋本麻里さんによる講演や、NHK連続ドラマ「あまちゃん」の音楽を手掛けた音楽家・大友良英さんらによる吹奏楽のコンサートも行われ、新たな村交流施設の開館に華を添えました。



村民集いの場 交流センター 「ふれ愛館」開館



▲村民の絆をつなぐ交流センターが幕を開けました

8月13日、建て替えを行っていた飯館村交流センター(旧公民館)の開館記念式が行われ、集まった多くの村民らにお披露目されました。式では、菅野村長があいさつし、「村民の絆、地域同士のつながりが復活するよう願いを込めた施設が完成した。多くの人たちが交流し、村の未来を築いていって欲しい」と期待を込めました。「ふれ愛館」の愛称は全国から一般公募により集まった522件の中から選ばれたもので、命名者となった友久健さん(神奈川県鎌倉市)と石川萌さん(飯館中2年)も式に参加しました。愛称を記した銘板は館前に設置され、彫刻家・重岡建治さんが絆をテーマに制作したブロンズ像の除幕も行われました。

飯館村交流センター
ふれ愛館
〒960-1801
福島県相馬郡飯館村
草野字大師堂17
☎ 0244-42-0072
FAX 0244-42-0860



▲お母さんコーラスによる村民歌斉唱



▲館前に設置されたブロンズ像の除幕